

全視情協通信 / な い - ぶ	1997 / 1 / 25
NAIIV	No. 10
発行 発行責任者 川越 利信	
全国視覚障害者情報提供施設協議会(全視情協) (社会福祉法人 日本盲人社会福祉施設協議会 情報サービス部会事務局)	
〒550 大阪市西区江戸堀 1 - 13 - 2 日本ライトハウス盲人情報文化センター内 Tel. 06 - 441 - 0015 Fax. 06 - 441 - 0039 E-mail: HBD00035@niftyserve.or.jp	

主 な 内 容

- デイジー、世界中で加速 1
- I F L A / S L B スタンディング・コミティー 4
- 短信 訃報 4
 - 東京リーガルマインド社に感謝状贈呈 4
 - 機械化委員会開催 4
 - WBU(世界盲人連合)事務局長ペトロ・ズリータ氏、交通事故 4
- 第15回音訳指導技術講習会 報告 5
- 新年度事業に関する要望について 6
- 委員会開催予定 6
- 編集後記 6

デイジー、世界中で加速

国立リハビリテーションセンター研究所
全視情協(全国視覚障害者情報提供施設協議会)
機械化委員長

河村 宏

デイジーとプレクストークの評価試験は、世界中で高い評価を得ながら、来る3月の京都会議を間近にして、ますます加速がつつある。

デイジー(DAISY) : 視覚障害者用デジタル録音システム
プレクストーク(Plectalk) : 視覚障害者用録音再生機

昨年末から新年にかけて、世界中の評価試験参加団体にプレクストーク (Plextalk) が配布されました。1993年に日本でデジタル録音図書の模索が始まってから4年の開発努力の成果ですが、利用者の大きな期待と共に製作者側の懸案もいくつかあります。

期待は、もちろん使い勝手にあります。今までのカセット録音図書では、頁を指定して開くことはできませんし、目次で興味ある見出しを見つけても、そこまでテープを送る手間がかかりました。プレクストークについてくる評価用のCD図書の目次は、即座に再生できることが特徴です。埼玉点字図書館、日本点字図書館、名古屋ライトハウス盲人情報文化センター、日本ライトハウス盲人情報文化センターの各館の録音担当者のご苦勞で、評価用のタイトルも各種そろって、利用者の皆さんの評価を待っています。

海外では32カ国が評価試験に参加します。多くの国が自国語版のプレクストークを使います。プレクストークの優れた特徴の一つが、インストールするメッセージを代えることによって、何語の音声ガイダンスでもできることです。同様に録音図書の本体も人間の音声をデジタル化するので言語に依存しません。本当に国際標準となるためには、このように言語に依存しない設計が重要です。

カナダからのレポートによると、ブリティッシュ・コロンビア大学で初めてテストを始めるために全盲の担当者がマニュアルを手に独習をしている間中「ワオッ」という感嘆の聲が洩れていた、とのことでした。

今、試験参加機関の間でCD図書の国際貸借のシステムを作る相談をしています。著作権の問題と費用の問題をどうするかで話し合いを進めています。

最初に少しふれた課題、世界中の評価試験の方はどうでしょうか。デイジー (Digital Audio Information System) の普

及とソフトウェア開発のための国際共同開発機構には新たにオーストラリアが加入し、アジア太平洋地域は日本とオーストラリアが提携して開発と普及に貢献することになりそうです。これで、欧米とスペイン語圏の中南米、アジア・太平洋地域がカバーされ、加入検討中のフランスが加入すれば、イスラム語圏を残すのみとなります。中東和平が順調に進んで、評価試験に参加するイスラエルが中心になってイスラム語圏をカバーしてくれることに期待しています。

録音図書製作ソフトウェアは日進月歩で、初期バージョンで製作した担当者の皆さんは大変な苦勞をされたと推察します。最新の製作ソフトはインターネットで配布されるようになっているので、インターネットにアクセスできない製作者の方々ももどかしく感じると思います。ソフト開発につきもののバグ情報も含めて、インターネットの活用が当たり前とされる時代の到来を感じさせます。

余談ですが、本年2月4 - 5日に東京で開催される国内最大規模の産官学合同のインターネット研究集会 (第3回J C / O L Uシンポジウム) に東京大学の釜江先生と協同で「視覚障害者用大規模音声情報ネットワークの構築」という論文を紹介します。私自身はドイツで会議があつて釜江先生にご発表いただきますが、世界中のDAISYを使った百科事典や蔵書目録データベースに普通の電話でアクセスして、必要な項目のみを聞くシステムの提案をして、インターネット関係者の協力を得ようという意図です。普通の電話機でインターネットの検索が自由にできるようになって初めて、インターネットはすべての視覚障害者に身近なものになると思われます。

さて、DAISYの製作ソフトウェアは、いよいよ製品版が3月中にリリースされます。この製品版を同時に日本語で提供できるように今調整中で、早ければ

ほぼ製品版に近いものを今月末からのヨーロッパ出張中にメニュー画面だけ日本語化して持ち帰れると思います。マニュアルの日本語化は、マニュアルの原文が完成してからになりますので、4月になりそうです。それまでは、何かと不自由と存じますが、英語版をお使いいただくことになります。

最近、ボランティアの皆さんの家庭内録音にも使えそうなシステムの組み合わせを私なりに見つけたのでお知らせいたします。これは、まだ、録音の専門技術者のきちんとした評価を得ていない参考情報としてご理解いただきたいと思いますが、これまでのところ下記の組み合わせで家庭内など防音が不完全な所でもDAISY録音ソフトを使ってある程度簡単に直接録音出来るようですので、機会があればお試し下さい。

なお、DAISY録音ソフトは、評価試験用のCD図書を製作していただける団体にはライセンスできますが、インストール等のサポートの入手に限りがありますので、製作ご希望の団体は筆者に直接ご相談下さい。

(FAX: 03 - 3305 - 4994)

[参考]

家庭内録音用

DAISY製作システム推奨機器構成

これはあくまでも体験的な情報ですので、業務に使う際にはこれを参考にして慎重にシステムを組んで下さい。取りあえずの試験をするためには、1または同等のデスクトップパソコンと3が必須です。

1. ノートパソコン

CPU: Pentium 100mhz以上

メイン・メモリー: 16MB以上

ハードディスク残容量: 200MB以上

音源ボード:

SoundBlater 16 または同等品
冷却用ファンの付いていないものが静かで良い。

条件に合致するノートパソコンの例:
SANYO Winkey MBC S700
(某量販店で実売価格税込み25万円程度)

2. パソコン用 外付け アンプ付 スピーカー、ボリュームコントロールできるヘッドホン出力付

例: Panasonic EAB MPC40
(実売価格7000円程度)

モニタースピーカーになるほか、録音機器のアナログ出力(LINE OUT またはヘッドホン出力)をアンプ機能を使ってコントロールできる。

3. ヘッドホン一体型アンプ内臓マイク

例: SONY DR-50
(実売価格6000円前後)

周囲の雑音を拾いにくいマイクが必須。
ヘッドホン一体型は呼吸音も拾いやすいので呼吸に注意が必要。

4. リムーバブル大容量記憶装置

万一の事故からデータを守るため、多人数で分担製作する場合、一台のパソコンを使って複数のタイトルを同時に製作する時、など用途は広い。また、最終的にCD-Rにコピーする時には個々のノートパソコンにCD-Rを付けるよりも、どこかで集中的に処理するほうが効率的だろう。

理想的には1GB収容できるJAZドライブが望ましいが、PCMCIAのSCSIインターフェースと込みで約10万円かかる。最も安価なZIPは、2万円前後で手に入るが、通常の録音ではメディア一枚当たり約3時間(ソフトが改訂される本年末には9時間)分の録音時間になる。

IFLA / SLBスタンディング・コミティー

(国際図書館連盟盲人図書館セクション常任委員会)

平成9年3月4日(火)~7日(金) ハートンホテル京都において、世界各国から約30名が参加して、IFLA / SLBの常任委員会をはじめ、デイジー評価会議などが開催されます。

日	会議名	主管
4日	DAISY & Plectalk International Experts Committee	デジタル促進委
5日	DAISY & Plectalk International Experts Committee and DAISY Consortium Field Test Sub-Committee	デジタル促進委
5日夜	レセプション	デジタル促進委・ 全視情協共催
6日	DAISY Consortium Field Test Sub-Committee	デジタル促進委
	IFLA/SLB Standing Committee	全視情協
7日	IFLA/SLB Standing Committee	全視情協

短 信

訃報

平成8年12月26日(木)、名古屋盲人情報文化センター 館長 金森義忠氏ご夫人、和子様(61歳)が亡くなりました。

平成9年1月21日(火)、社会福祉法人 日本盲人会連合 牧田克輔 情報部長のご尊父・牧田忠一様(89歳)が亡くなりました。

東京リーガルマインド社に感謝状贈呈

平成9年1月13日(月)、(株)東京リーガルマインドに川越利信会長から感謝状を贈呈いたしました。「わかりやすい法律シリーズ・わかりやすい会社法」点字版を、全国の視覚障害者情報提供施設に寄贈していただいたことに対するもので、今回で3回目。同社は各種資格試験のために、また一般教養としての法律入門書等を数多く出版しているが、ここ数年来、視覚障害者に対する点字本発行にもご尽力いただいています。

機械化委員会開催

平成9年1月13日(月)~14日(火)、東京・日本点字図書館で機械化委員会が開催されました。「書誌データ管理システム」の完成に向けて、てんやく広場と協力体制を作るため、てんやく広場ホストセンターより加藤俊和氏(日本ライトハウス点字情報技術センター所長)に参加していただきました。

WBU(世界盲人連合)事務局長ペトロ・ズリータ氏、交通事故

1月10日すぎ、WBU事務局長のペトロ・ズリータ氏がモロッコで自動車事故にあわれ、マドリッドの病院に運ばれました。22日現在、まだ集中治療室で治療中。家族以外は病室に入れられないという重体です。

平成8年度 第15回音訳指導技術講習会 (第1期 音訳指導員資格認定講習会 後期) 報 告

開催日 平成8年11月27日(木)12時～11月29日(土)17時
会 場 お茶の水スクエアA館 2F ルーム6
担 当 全視情協(全国視覚障害者情報提供施設協議会)録音委員会

内 容

11月27日(木)

講義1「教育原論」小林一弘氏(前全国盲学校長会会長)

講義2「日本語音韻論」王 伸子氏(専修大学助教授)

11月28日(金)

講義3「編集技法」姉崎久志氏(神奈川県ライトセンター)

講義4「ボランティア活動論」村井晶人氏(日本ライトハウス盲人情報文化センター)

講義5「音訳評価法2-1」河合和美氏(名古屋ライトハウス盲人情報文化センター)

11月29日(土)

講義6「音訳評価法2-2」河合和美氏(名古屋ライトハウス盲人情報文化センター)

講義7「音訳者教育法」恵美三紀子氏(JBS日本福祉放送)

実施結果

日盲社協(社会福祉法人日本盲人社会福祉施設協議会)主催、「第15回音訳指導技術講習会(第1期 音訳指導員資格認定講習会 後期)」を平成8年11月27日～29日の3日間にわたって、上記の通り実施した。

本年度は昨年度の前期講習会に引き続き参加した受講者(一部、配転など職場移動のため不参加)に加えて、新たに8名の受講者を加え、合計56名の参加者となった。

講義内容は、ボランティア教育に必要な教育原論、そして日本語を言葉として発声した場合の音韻についての知識習得、最後に音訳者教育法で前期、後期の講習を締めくくった。受講結果のアンケートによれば概ね好評であった。今後の予定としては1月末の課題・レポート提出締め切り、2月27日～28日に大阪で開催される録音委員会での審査を経て、認定者には認定証を発行する予定となっている。

また次年度は大阪で認定講習会を行う予定になっているが、次年度から指導ボランティアの参加を認めるため、若干の内容修正が必要と考えられる。さらに資格認定者に対するアフターケアも同時に行う予定になっている。日程などの詳細は、3月頃には決定する見通しである。

新年度事業に関する要望について

平成9年度事業に関する要望等を募集いたします。

長期(6ヶ年)基本事業計画では、平成9~10年度は「視覚障害者情報提供施設(点字図書館)の役割・機能の抜本見直し」となっております。次年度もこの基本事業計画にそった活動を行いたいと思いますが、基本方針に沿う提案等で、特にご意見・ご要望がございましたら、事務局までご連絡ください。

- ・年間行事(全視情協大会、点訳講習会、音訳講習会等)について
- ・各委員会に対する要望
- ・機関誌NAIIV誌面作りについて
- ・その他

全視情協事務局(担当:正井)
〒550 大阪市西区江戸堀1-13-2
日本ライトハウス盲人情報文化センター内
TEL 06-441-0015
FAX 06-441-0039
E-mail HBD00035@niftyserve.or.jp
てんやく広場ID PC5B-ICCB

委員会開催予定

企画委員会

1月27日(月)~28日(火) 東京・日本点字図書館
1月28日(火)午後 厚生省・企画委員合同勉強会

サービス委員会

2月18日(火)~19日(水) 東京・日本点字図書館

点訳委員会

2月11日(火)~13日(木) 岐阜・長良川スポーツプラザ

編集後記

昨年は、後藤市郎氏(北海点字図書館館長)、田中徹二氏(日本点字図書館館長)、金森義忠氏(名古屋盲人情報文化センター館長)のお三方のご令室が他界されました。お三方ともまだお若かっただけに、残された方々の悲しみはひとしおであったことだろうと思います。早くお元気を回復されますよう祈念いたします。

1月28日に厚生省との話し合いがもたれます。視覚障害者が高度情報社会の中で目の健康な人々との情報格差が拡大しないように、「情報アクセスの平等」をテーマに実り多い勉強会になるようにしたいと考えております。そのための企画委員会を、前日27日と28日の午前中に開催します。勉強会の報告は2月号でお届けできるでしょう。

(川越)